過剰後肢をもつウシガエル

佐伯　英人

過剰後肢をもつウシガエル（別名：ショクヨウガエル）*Rana (Rana) catesbeiana* の記事が，1998 年 8 月 19 日の愛媛新聞に掲載された（資料 1）．「1998 年 5 月，仙波翔太郎さん（当時、松山市立みどり小学校第1学年）と父親の仙波誠氏が，松山市東山町の池で 10 余個体のウシガエルの幼生を採集し，それらを水槽に入れて飼育した結果，変態して成体になり，その中の1個体が後肢過剰であった」という内容のものである．なお，採集地点である「松山市東山町の池」の環境庁標準メッシュコード(環境庁自然保護局，1997) は 5032-6538 および 6539 である．

新聞に掲載された写真はウシガエルを背面から撮影したものであった．筆者は過剰後肢のようすを腹面より撮影し，記録しておく必要があると考え，西谷スクールフォトの西谷浩次郎氏の御協力を得て 1998 年 8 月 21 日に撮影した（写真 1）．

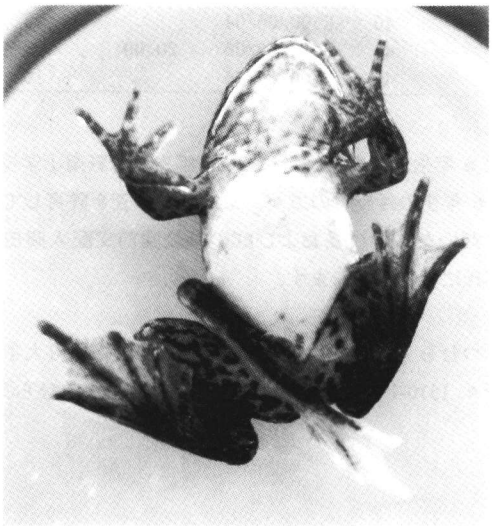

写真 1　過剰後肢をもつウシガエルの腹面（西谷氏撮影）

ウシガエル後ろ脚3本

松山の仙波さん方

泳ぐのちょっと苦手です…

後ろ脚が真ん中に1本多くある奇形のウシガエル

全国で10例目

○…後ろ脚が三本ある奇形のウシガエルを、松山市久万ノ台の仙波翔太郎君(七)が自宅で飼っている。五月に父の誠さんと一緒に同市東山町の池で捕まえ、家で育てていたオタマジャクシがこのほど、カエルに成長。うち一匹の脚が多いのに気がついた。

○…三本目の脚は両脚の間からはえ、水かきはついているものの細長く、筋肉も貧弱。「見つけたときは気持ち悪かった。脚が水草に引っかかったりして泳ぎにくそう」と翔太郎君。水槽の外では元気よくピョンピョン跳ねている。色はこげ茶で、体長四～五㌢。金魚のえさやミミズを二、三日に一度与えている。

○…「原因は卵発生時のアクシデントによる突然変異の可能性が高いが、遺伝の可能性もある」とカエルの生態に詳しい面河山岳博物館の主任学芸員岡山健仁さん。脚の多いウシガエルの発見は全国で十例目で、四国では初めてという。県内では平成四年、上浮穴郡小田町で前脚の多いアマガエルが見つかっている。

○…翔太郎君は昨夏もカエルを飼っていたが、逃げられてしまった。「夏休みが終わるまで大事に育て、友達に見せてあげたい」と笑顔で話している。

資料1　1998 年 8 月 19 日付 愛媛新聞記事

文　　献

環境庁自然保護局，1997，都道府県別メッシュマップ38愛媛県．自然環境研究センター．p. 35.

前田憲男・松井正文，1989，日本カエル図鑑．文一総合出版．104-107

（さいき　ひでと　〒790-8577　松山市文京町３番　愛媛大学大学院教育学研究科）